

令和5年度 琉球大学2次試験後期日程 (数学問題)
理学部 (数理科学科) 令和5年3月12日

- 数I・II・III・A・B (120分)

1 関数 $y = x\sqrt{9-x^2}$ に対して、次の問いに答えよ。

- (1) 増減を調べてこの関数のグラフをかけ。
- (2) この関数のグラフと x 軸で囲まれてできる図形の面積を求めよ。

2 $F(x) = \int_0^x \frac{dt}{1+t^2}$ とし、 $f(x) = F(3x) - F(x)$ とする。次の問いに答えよ。

- (1) $f'(x)$ を求めよ。
- (2) $x \geq 0$ の範囲で、 $f(x)$ の最大値を求めよ。

3 自然数からなる2つの数列 $\{a_n\}$, $\{b_n\}$ を

$$(3 + 2\sqrt{2})^n = a_n + b_n\sqrt{2} \quad (n = 1, 2, 3, \dots)$$

で定める。次の問いに答えよ。

- (1) すべての自然数 n に対して、 a_n は奇数、 b_n は偶数であることを示せ。
- (2) すべての自然数 n に対して、

$$1 + 2 + 3 + \dots + \frac{a_n - 3}{2} + \frac{a_n - 1}{2} = 1 + 3 + 5 + \dots + (b_n - 3) + (b_n - 1)$$

が成立することを示せ。

4 赤球が1個、白球が2個入った球を1個取り出して、その色を見てから袋に戻すという試行を、白球が2回続けて出るまで行う。 n 回目に白球を取り出しまだ試行が終わらない確率を p_n 、 n 回目に赤球を取り出す確率を q_n とする。次の問いに答えよ。

- (1) p_{n+1} , q_{n+1} を p_n , q_n を用いて表せ。
- (2) $a_n = p_n - q_n$ とするとき、数列 $\{a_n\}$ の一般項を求めよ。
- (3) $b_n = (-3)^n p_n$ とするとき、数列 $\{b_n\}$ の一般項を求めよ。
- (4) $n + 1$ 回目で試行が終わる確率を求めよ。

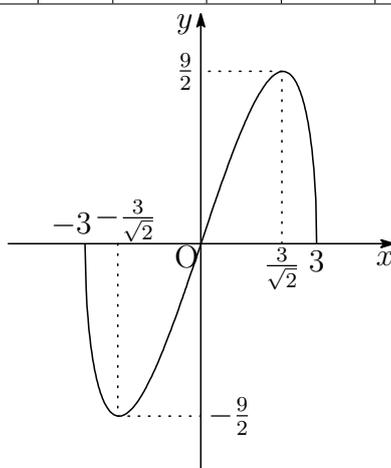
解答例

1 (1) $y = x\sqrt{9-x^2}$ より, 定義域は, $9-x^2 \geq 0$ を解いて $-3 \leq x \leq 3$

$$y = \sqrt{9-x^2} + x \left(\frac{-x}{\sqrt{9-x^2}} \right) = \frac{9-2x^2}{\sqrt{9-x^2}}$$

したがって, 増減およびグラフの概形は次のようになる.

x	-3	...	$-\frac{3}{\sqrt{2}}$...	$\frac{3}{\sqrt{2}}$...	3
y'		-	0	+	-		
y		↘	極小	↗	極大	↘	



(2) グラフは原点に関して対称であるから, 求める面積は

$$2 \int_0^3 x\sqrt{9-x^2} dx = 2 \left[-\frac{1}{3}(9-x^2)^{\frac{3}{2}} \right]_0^3 = 18$$

2 (1) $F(x) = \int_0^x \frac{dt}{1+t^2}$ より, $F'(x) = \frac{1}{1+x^2}$ であるから

$$f'(x) = 3F'(3x) - F'(x) = \frac{3}{1+9x^2} - \frac{1}{1+x^2} = \frac{2-6x^2}{(1+x^2)(1+9x^2)}$$

(2) (1)の結果から

$$f'(x) = \frac{-6}{(1+x^2)(1+9x^2)} \left(x - \frac{1}{\sqrt{3}}\right) \left(x + \frac{1}{\sqrt{3}}\right)$$

$x \geq 0$ で増減表をかくと

x	0	...	$\frac{1}{\sqrt{3}}$...
$f'(x)$		+	0	-
$f(x)$	0	↗	極大	↘

$x \geq 0$ における最大値は, 上の増減表および $f(x) = F(3x) - F(x)$ により

$$f\left(\frac{1}{\sqrt{3}}\right) = F(\sqrt{3}) - F\left(\frac{1}{\sqrt{3}}\right) = \int_{\frac{1}{\sqrt{3}}}^{\sqrt{3}} \frac{1}{1+t^2} dt$$

$t = \tan \theta$ とおくと

$$\frac{1}{1+t^2} = \frac{1}{1+\tan^2 \theta} = \cos^2 \theta, \quad dt = \frac{d\theta}{\cos^2 \theta}$$

t	$\frac{1}{\sqrt{3}} \rightarrow \sqrt{3}$
θ	$\frac{\pi}{6} \rightarrow \frac{\pi}{3}$

したがって

$$f\left(\frac{1}{\sqrt{3}}\right) = \int_{\frac{\pi}{6}}^{\frac{\pi}{3}} \cos^2 \theta \cdot \frac{d\theta}{\cos^2 \theta} = \int_{\frac{\pi}{6}}^{\frac{\pi}{3}} d\theta = \frac{\pi}{6}$$

3 (1) $(3 + 2\sqrt{2})^n = a_n + b_n\sqrt{2}$ ($n = 1, 2, 3, \dots$) より

$$\begin{aligned} a_{n+1} + b_{n+1}\sqrt{2} &= (3 + 2\sqrt{2})(a_n + b_n\sqrt{2}) \\ &= 3a_n + 4b_n + (2a_n + 3b_n)\sqrt{2} \end{aligned}$$

a_n, b_n は自然数で, $\sqrt{2}$ は無理数であるから, 次の漸化式が成立する.

$$a_{n+1} = 3a_n + 4b_n, \quad b_{n+1} = 2a_n + 3b_n \quad (*)$$

a_n, b_n は自然数であるから, 法2について

$$a_{n+1} \equiv a_n, \quad b_{n+1} \equiv b_n \pmod{2}$$

$a_1 = 3, b_1 = 2$ であるから, すべての自然数 n について

$$a_n \equiv 1, \quad b_n \equiv 0 \pmod{2}$$

よって, すべての自然数 n について, a_n は奇数, b_n は偶数.

(2) l, m を自然数とすると

$$1 + 2 + 3 + \dots + l = \frac{1}{2}l(l+1)$$

$$1 + 3 + 5 + \dots + (2m-1) = m^2$$

これに $l = \frac{a_n - 1}{2}, m = \frac{b_n}{2}$ を代入すると

$$1 + 2 + 3 + \dots + \frac{a_n - 1}{2} = \frac{1}{2} \cdot \frac{a_n - 1}{2} \left(\frac{a_n - 1}{2} + 1 \right) = \frac{a_n^2 - 1}{8}$$

$$1 + 3 + 5 + \dots + (b_n - 1) = \left(\frac{b_n}{2} \right)^2 = \frac{b_n^2}{4}$$

したがって, すべての自然数 n について

$$a_n^2 - 2b_n^2 = 1$$

が成立することを示せばよい. (*) より

$$a_{n+1}^2 - 2b_{n+1}^2 = (3a_n + 4b_n)^2 - 2(2a_n + 3b_n)^2 = a_n^2 - b_n^2$$

したがって $a_n^2 - 2b_n^2 = a_1^2 - 2b_1^2 = 3^2 - 2 \cdot 2^2 = 1$

よって, すべての自然数 n に対して, 次式が成立する.

$$1 + 2 + 3 + \dots + \frac{a_n - 3}{2} + \frac{a_n - 1}{2} = 1 + 3 + 5 + \dots + (b_n - 3) + (b_n - 1)$$

- 4 (1) 試合が継続している状態で $n+1$ 回目が白玉であるとき, n 回目は赤玉であるから

$$p_{n+1} = \frac{2}{3}q_n$$

試合が継続している状態で $n+1$ 回目が赤玉であるとき, n 回目は白玉または赤玉であるから

$$q_{n+1} = \frac{1}{3}(p_n + q_n)$$

- (2) $a_n = p_n - q_n$ とすると, (1) の結果から

$$a_{n+1} = p_{n+1} - q_{n+1} = \frac{2}{3}q_n - \frac{1}{3}(p_n + q_n) = -\frac{1}{3}(p_n - q_n) = -\frac{1}{3}a_n$$

$a_1 = p_1 - q_1 = \frac{2}{3} - \frac{1}{3} = \frac{1}{3}$ より, $\{a_n\}$ は初項 $\frac{1}{3}$, 公比 $-\frac{1}{3}$ の等比数列であるから

$$a_n = \frac{1}{3} \left(-\frac{1}{3}\right)^{n-1} = -\left(-\frac{1}{3}\right)^n$$

- (3) (1) の結果から

$$p_{n+1} + 2q_{n+1} = \frac{2}{3}q_n + 2 \cdot \frac{1}{3}(p_n + q_n) = \frac{2}{3}(p_n + 2q_n)$$

$p_1 + 2q_1 = \frac{2}{3} + 2 \cdot \frac{1}{3} = \frac{4}{3}$ であるから, $\{p_n + 2q_n\}$ は初項 $\frac{4}{3}$, 公比 $\frac{2}{3}$ の等比数列であるから

$$p_n + 2q_n = \frac{4}{3} \left(\frac{2}{3}\right)^{n-1} = 2 \left(\frac{2}{3}\right)^n$$

(2) の結果から $p_n - q_n = -\left(-\frac{1}{3}\right)^n$

上の2式から q_n を消去すると

$$p_n = \frac{2}{3} \left\{ \left(\frac{2}{3}\right)^n - \left(-\frac{1}{3}\right)^n \right\} \quad (*)$$

$$b_n = (-3)^n p_n \quad \text{より} \quad b_n = \frac{2}{3} \{(-2)^n - 1\}$$

- (4) 求める確率は, 終了することなく n 回目に白球が出て, $n+1$ 回目に白球が出る確率であるから, (*) より

$$\frac{2}{3}p_n = \frac{4}{9} \left\{ \left(\frac{2}{3}\right)^n - \left(-\frac{1}{3}\right)^n \right\}$$